

令和4年度 第2回 横浜市自転車等施策検討協議会 会議録	
日 時	令和5年3月16日(水) 14時30分～16時00分
開 催 場 所	市庁舎18階 みなと1・2・3
出 席 者	岡村委員(会長)、青木委員、秋和委員、井上委員、大石委員、絹代委員、小嶋委員、五反田委員、後藤委員、佐竹委員、佐藤委員、鈴木幸委員、鈴木潤委員、八郷委員、馬場委員、福田委員 計16名
欠 席 者	岡崎委員、吉田委員 計2名
開 催 形 態	公開(傍聴者0人、オンラインでの傍聴回数20回)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 オンラインでの傍聴(案)について 2 各施策の実施状況について 3 指標の見直し及び達成状況について 4 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験事業評価部会の開催状況について
決 定 事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1 オンラインでの傍聴を決定 2 指標の目標値を決定
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 オンラインでの傍聴(案)について (事務局) ※説明資料に基づき、「オンラインでの傍聴(案)について」説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインでの傍聴について、案のとおり決定した。 2 各施策の実施状況について (事務局) ※説明資料に基づき、「各施策の実施状況について」説明 (鈴木潤委員) <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で落ち込んでた自転車に乗る人が増えてきたと思う。 ・ 乗る人も増えているので、小学校での教育の場の機会を増やしたほうがいいのではないか。 ・ 電動キックボードは、法改正によって、自転車と同じ扱いになるのか。 ・ 「知ってもらおう」という意味では、赤レンガ倉庫で実施するサイクルスタイルに出展されると聞いているが、ブースのインパクトが足りないと感じる。旗を立てるにしても、インパクトのある自転車保険啓発のものか、ヘルメットなどにしたほうが、良いのではないか。 (事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車の交通安全教育については重要であると考えており、はまっ子交通あんぜん教室や中高生向けの教室を実施している。来年度の回数については、資料のとおりだが、回数を増やす以外にも、やり方を工夫するなど効果を高められるようなことを考えたい。 ・ 電動キックボードは、自転車と同じルールになるわけではないが、16歳以上で免許不要で乗ることができるようになるなど、7月からルールが変わる。

市としてもルールの周知や啓発について、警察と連携しつつ取り組んでいきたい。

- ・ サイクルスタイルで市が出しているブースは、地味な雰囲気があるかもしれないので、頂いたご意見を踏まえて、より良い内容にしていきたい。

(佐藤委員)

- ・ 警察として電動キックボードは、自転車ではなく原付の一種という認識である。法改正の中で、第1種原動機付自転車（原付）は、特定小型原動機付自転車と一般原動機付自転車の2種類に分かれる。そのため、電動キックボードは、自転車の仲間になるのではなく、原付であるという認識をもってもらいたい。

(佐竹委員)

- ・ 自転車保険の年齢別加入率について、18歳から20代がほかの年代よりも低くなっているが、どのような分析をしているか。また、加入率を上げていくために、どのようなことを考えているか

(事務局)

- ・ 18歳～20代の加入率が低いことの理由について、正確な把握は難しい。
- ・ 若い世代は紙媒体よりもインターネット等で情報を得る人が多いので、「インターネット広告への掲出」の実施などにより、加入率の底上げをはかりたい。

(小嶋委員)

- ・ 新規で「放課後児童交通安全教室」を実施するとあるが、小学校での教室とあわせてどのような効果を狙っているのか。

(事務局)

- ・ はまっ子交通あんぜん教室では、低学年児童は道路の安全な歩き方、高学年児童は自転車の乗り方を主として教えている。
- ・ 放課後児童交通安全教室は、はまっ子交通あんぜん教室に上乘せするような形で更なる拡充を図っていきたい。

(馬場委員)

- ・ シェアサイクルの認知度がまだまだ足りないと考えている。地域としてはぜひ、活用促進していきたいのでPRをしていきたい。

(事務局)

- ・ 都心部で使ったことがある人はたくさんいると思うが、郊外部でも使えることが十分に認知されていないと感じる。
- ・ 泉区では、11月にイベントに出展したが、そのような機会を通じて、引き続き、広報、周知、啓発に取り組んでいきたい。

(後藤委員)

「都心部のシェアサイクルの将来像」の図は、駅周辺にポートを拡充していき、それによって利用者が増えるというイメージか。

(事務局)

- ・ 駅が書いてあるのは一例だが、駅周辺であったとしてもサイクルポートが少ない地域が存在している。そのため需要を取り込めていない部分もあると考えるので、重点的にサイクルポートを設置することで拠点からの移動を促すことをイメージしている。

(絹代委員)

- ・ はまっ子交通あんぜん教室について、梅雨時や熱中症の可能性があるということで中止されることがないように、座学に切り替えるとか、代替案を用意すべきだと思う。
- ・ スケアード・ストレイトについては、費用がかかるが効果が出ないため、皆がルールを習得してもらえるような教室に変更していってもらえるように話し合っていたきたい。
- ・ 電動キックボードは今後、自転車と同じエリアを使うことになる。免許不要なので、自転車に乗っている感覚で乗る人がいると思う。全年代をカバーするような情報発信に切り替えて、電動キックボードなど新たなパーソナルモビリティのこれからの進行も視野に入れながら進めてほしい。
- ・ サイクルスタンプラリーは、今まで横浜と横須賀をつないでいて、自転車に乗り慣れた人しかトライできないという、かなりの距離感になっている。今後はシェアサイクルを活用して、気軽に自転車で巡れるような形にするだけでなく、イギリス縛りを外して、横浜のスポットを巡るなどしていった方がよいと思う。

(事務局)

- ・ はまっ子交通あんぜん教室は、関係機関と共有し、どういったことが考えられるかなど、意見交換を行っていききたい。
- ・ スケアード・ストレイトは、市としては一定の効果があると考えており、来年度以降も実施していく方向である。スケアード・ストレイトに限らず、事業全体が効果があるようなやり方で実施していくことが大切だと考えているため、全体として、どのような広報をしていくか、どのような教育が効果的かということについては、引き続き検討していききたい。
- ・ 電動キックボードについては、詳細なルールを知らない方も多いと思うので、情報発信に力を入れていききたいと思う。
- ・ イベントについては、より効果が高まるような、自転車に乗って横浜の魅力を知っていただけるようなやり方を考えていききたい。

(鈴木幸委員)

- ・ 自転車の利用場面で、通勤・通学で駐輪場が不足していたと考えていたが、実際は買い物や通院の利用が多いことが見受けられた。こうしたデータを活用して、各施策に反映してほしい。

	<p>(岡村委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都心部のシェアサイクルの将来像について、どんな利用を想定したいかといったことについては、公募の事業者が考えることでなく、市が目標を設定して、事業者がアイデアを出す必要があると思う。そういったことを将来像に記載しておくといいと思う。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募資料は作成している段階なので、組み込んでいけるように検討したい。 <p>3 指標の見直し及び達成状況について</p> <p>(事務局)</p> <p>※説明資料に基づき、「指標の見直し及び達成状況について」説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標の目標値(案)について承認 <p>4 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験事業評価部会の開催状況について</p> <p>(事務局)</p> <p>※説明資料に基づき、「横浜市広域シェアサイクル事業社会実験事業評価部会の開催状況について」説明</p> <p>(佐藤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業評価手法の構成の部分で、「交通ルール等の周知」があり、4月1日以降の法改正に伴う、自転車利用者のヘルメット着用努力義務化について、安全利用の促進といった観点で見させていただく。 <p>5 閉会</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 次第</p> <p>(2) 委員名簿</p> <p>(3) 説明資料</p> <p>2 特記事項</p> <p>次回は、秋ごろに開催予定。開催日時・場所は、後日お知らせします。</p>